

# 浄土ヶ浜パークホテル

## 東日本大震災からこれまでの歩み

---

---

2012年3月7日

株式会社 浄土ヶ浜パークホテル  
The Park Hotel Jodogahama (JPH)

2011年3月11日午後2時46分地震の発生

その時、ホテルには、ツアーのお客様が到着・・・



そして、午後3時26分に  
津波が到来！

その時、ロビーでは・・・



引き波が海底をあらわに

その頃、浄土ヶ浜は、人工物が壊れ・・・



- ◆ ホテルの使命は、究極の地域コミュニティ
- ◆ 地震直後から、地元鍬ヶ先の被災者の方が230人余り、ホテルに避難され、1ヶ月の避難所運営がスタート
- ◆ 多数の従業員も被災するなか、家族のようチームワーク  
休暇・外出中の従業員の安否確認するも・・・
- ◆ 地震・津波による施設への損傷はなかったものの、  
インフラが遮断され、飲料水、トイレの水確保、  
自家発電の重油の確保に奔走
- ◆ 写真は撮れない・・・

## ◆避難所最後の夜

被災者の方々の発案で、感謝の集い

## ◆「この恩は、一生忘れません」の言葉が胸に込み上げるスタッフ





## Phase 2

## 救援・復旧・復興関係者の宿

- ◆ ホテルの使命は、地域の救援・復旧・復興関係者の方々の宿泊場所の提供
- ◆ 地域復興貢献と事業の両立
- ◆ 世界一安全なホテル

### サービススタイルの変更



### ラウンジでの就寝



## Phase 3

## 観光の復活・復興を目指して



人工物は壊れたが、  
幾千万年の時が刻んだ自然は・・

人工物の修復も進み、  
景観も元に戻りました



## Phase 3

## 観光の復活・復興を目指して

- ◆ ホテルの使命は、沿岸の観光復活の拠点になること
- ◆ 観光復興の狼煙を被災地から上げよう！
- ◆ 官から民へ ボランティアツアー



- ◆ お部屋での夕食の対応が困難
- ◆ ラウンジでビュッフェスタイルを手作り



## Phase 3

## 観光の復活・復興を目指して



◆お部屋でのお食事再開を目指して

◆2012年4月から  
「いわてデスティネーションキャンペーン」  
東京でのエージェントとの商談会  
いわて、沿岸への観光客誘致を！



- ◆小説家重松清氏の「希望の地図」（日刊ゲンダイに連載中）被災地の中から生まれた希望を辿っていくドキュメンタリータッチの小説で、当ホテルも舞台のひとつに



- ◆孤児・遺児の希望の地図を描くために、「いわての学び希望基金」に、義援金付宿泊プラン8月9月の売上に関する寄付金52万円余りを、お客様のお気持ちと一緒に、県にお届けしました

◆岩手県宮古市の観光の復興を！

岩手県沿岸の観光拠点を目指して



宮古市観光キャンペーン

「宮古に泊ってありがとうキャンペーン」キャラバンの様子

2011年12月14日

東京銀座岩手県アンテナショップ  
「いわて銀河プラザ前」



- ◆ 地域の方々を招いて、  
ワンコイン（500円）ランチビュッフェ



平成24年1月19日20日、  
600人近いお客様が来場

震災直後避難されていた  
方との再開も



## Phase 3

## 3月8日リニューアルオープンを目指して



- ◆宮古市・浄土ヶ浜には、安全にお越しになり、観光をお楽しみ頂けます。  
現在、広報・広告を展開中。

### ◆リニューアルオープンキャラバンを実施中

2012年2月26日

東京銀座岩手県アンテナショップ「いわて銀河プラザ前」



## 様々な取り組み

---

- ◆Phase1 避難所
- ◆Phase2 全国各県の警察の宿
- ◆Phase3 沿岸観光復興の拠点  
ボランティア  
経済的な支援  
↓  
観光復興への道筋
  
- ◆Phase4 リニューアルをし、来週の観光本格復活を目指す  
来年1月25日～3月7日休館  
3月8日リニューアルオープン  
休館期間中、地域での食事提供ボランティアを実施

## 明日への希望

---

- ◆ 震災後宿泊施設の原点に戻り、その時々のホテルの使命とは
- ◆ 当ホテルは、大震災直後、小さな希望を灯し続け、ホテルの使命を果たしてきた
- ◆ 物理的な復旧期には、支援者の宿として、地域貢献と事業継続という二つの使命を両立させてきた
- ◆ 本当の復興は、地域の事業を再開させ、一人ひとりの生活が成り立つこと
- ◆ 観光の復活は我々の使命、小さな希望の灯を大きな希望へ